

# 分苑たより

# なごみ

大本  
名古屋分苑

## 分苑長

### 皐月 月次祭挨拶

サルートン

皆様こんにちは

いかがお過ごしでしょうか。

本日は皐月月次祭に皆様と

ご一緒に参拝させて頂き誠に

ありがとうございます。

四月二十七日は誠心会が綾

部で献勞をさせて頂きたくま

した。

献勞をさせて頂いた場所

ですが、今回はみろく大祭の参

拝者に綾機平から長生殿本宮

山を見て頂くために、見学者

の方々が安心して歩けるよう

に敷地の凸凹を慣らしたり大

きな石を取り除いたり、また

慣らした処は転圧機で地を固

め人工芝を張る作業をおこな

いました。

翌日は本部職員の方々が弥

仙山祭典に行かれるため献勞

組も全員が弥仙山に登拝させ

て頂きました。

五月四日教主生誕祭があり、

午後からの全国愛善歌奉納大

会には全国から三十九チーム

が熱唱され名古屋分苑は基本

宣伝歌を奉納いたしました。

五日みろく大祭祭典後に節

分人型功勞者表彰があり、名

古屋分苑の表彰者の記念品は

預かっていますので、挨拶の

終了後には表彰式を行わせて

頂きます。

今月二十六日には、東海教

区青松会錬成道場を名古屋分

苑を会場に、前田特派を講師

に開催いたします。直心会の

方達には昼食のお世話になり

ます宜しく願っています。

六月に入ると皆神山記念祭

典が十五日教主様をお迎えし

て歓迎会、翌日は教主様ご臨

席、齋主成尾祭務部長、祭員

は東海教区、佯人も同じく東

海教区の方達で執行されます。

団体バスは期日が無く乗車

人数が少なく既にお断りしま

した。

自家用車で参拝される方で

外の施設で泊まれるは、直

会の関係上人数の報告をお願

いいたします。

六月二十三日は、名古屋分

苑、水無月月次祭の後で総代

会を開催いたします。各分

所・支部の役員改選と分苑総

代会の役員改選が進んでおら

れると思います。決まり次第

分苑に報告をお願いいたしま

す。総代会の定数は変更ござ

いませぬ。各総代会の案内は

棚に入れてあります。

三十日日曜日には、教本認

定一級講習会を開催いたしま

す。今年の四月から教本講習

会の日程は一日だけで今回の

教本は中級で使用した本で行

います。すでに東海教区の方

達にはご案内いたしています

が一級では講話実習として五

分間のスピーチが必須です。

事前に人生の目的・霊界につ

いての何方かを構想して頂き

ますようお願いいたします。

みろく大祭の教主様ご挨拶

のなかで綾機神社の造営また

香良洲神社とのご関係が深く

より親密になってきていますと

お述べられ、石碑建立もはっ

きりお述べになりました。

石碑建立の献金は六月の月

次祭で一応打ち切りいたしま

すが、皆様の真心で名古屋分

苑の割り当て額を目指したい

と思いますので、ご協力の程

宜しくお願いいたします。

本日の参拝誠

にありがとうございます。

ございました。

コーランダンコ



## 行事報告

### ●月始祭

五月四日(土)

参拝者 九名

齋主

祭員

進行

妹尾 正治

島山 亜美

天野 芳幸



### ●月次祭

五月十九日(日)

参拝者 二十五名

齋主

祭員

祭員

祭員

裏方

典礼長

佯人

佯人

佯人

進行

飯田 和彦

妹尾 正治

影近 博己

島山 茂

伊藤久仁男

鈴木 克彦

飯田 直美

長谷川美枝

澤田 淳

佐古 美鈴

青山 将士



### ●誠心会聖地献勞奉仕

名古屋分苑誠心会は四月二

十七日(土)綾部献勞奉仕、翌

二十八日(日)弥仙山参拝を行

いました。

初日は午後から綾機平に集

合して、みろく大祭時に行わ

れる「綾機平見学会」の為の

歩行者通路の凸凹を平らに整

地して、その上に人工芝を三メートル幅の百メートルくらいの長さで敷き詰める作業をさせて頂きました。天候にも恵まれ少し汗をかきながらの作業でした。



翌二十八日は弥仙山参拝に参加させていただきました。長生殿前から参加者一同、天津祝詞奏上後、八時三十分出発のバス二台にて弥仙山・金峰山神社祭典参拝へと向かいました。ふもとの水分（みくまり）神社到着後、約二時間かけて頂上の金峰山神社へ到着、十一時から祭典が行われ、石原松生さんが参拝者代表で玉串奉奠をさせて頂きました。

引き続き、中の宮神社礼拝、水分神社礼拝後、直会、最後に於与岐八幡宮礼拝後、甘酒の接待を受け、休憩後梅苑へ出発。十五時四十分頃無事

到着し、お礼拝後解散しました。

今回は初めての綾機平献勞と誠心会員揃つての弥仙山参拝と大変神徳（おかげ）を頂いた二日間でした。

参加者五名 畠山茂 報告



●直心会聖地献勞奉仕

五月十八日土曜、献勞に行つてまいりました。

長生殿の裏の草取りをさせて頂きました。

この日の綾部の天候は晴天、最高気温二十九度ということ、コウモリ傘を一本ずつ受け取り、傘をさしながらの作業となりました。

暑さと戦いながらの献勞でしたが、鳥取本苑の方々の

なごやかな交流もあり、美しくなった草取りの後を見て、何とも清々しく、ありがたい気持ちで終わることができました。

参加者 五名

森悦子 加藤登茂栄  
高嶋フミ子 國方智世  
報告 堀和子

直心会 バザーのお願い

今年も八月六日〜七日にかけて瑞生大祭、献金バザーをさせて頂きます。バザー用品の提供を頂きたく宜しくお願い致します。

尚、カンパのご協力も受付させて頂きます。

☆お持ちいただく期間・場所  
六月月始祭〜七月月次祭の十時まで  
☆分苑での開催日  
七月月次祭後、多目的室

忍び草

若葉支部 太田照子 毘女  
享年 七十七歳  
令和六年五月五日 帰幽  
謹んで哀悼の意を表します

行事予定

六月十五・十六日（土・日）  
皆神山記念祭典（長野）  
六月二十三日（日）  
月次祭 午前十時半より  
六月三十日（日）  
教本一級認定講習会  
七月六日（土）  
月始祭 午後一時半より

じいじの道草雑話【さくら】

特任宣伝使 妹尾 正治  
愛知県の桜の開花は平年に比べて五日ほど遅かったようです。

『梅は咲いたか桜はまだかいな』と日本全国、海外の観光客からも待ちに待った桜前線の到来でした。

寒くて暗い冬が明け、草木は芽生え入学式入社式と新しいスタートをピンク一色に着飾った桜が祝っている様です。

しかしじいじには、この時期になると素直に喜べない寂しい・悲しい二つの記憶がよみがえってきます。

じいじがまだ青年の頃でした、当時は仲間と酒を飲んで盛り上がる肩を組んで「同

期の桜」を歌っていました。家で『咲いた花なら散るのは覚悟』と口ずさんでいると、普段怒った顔を見せない父親に『そんな歌を歌うんじゃない！』と烈火のごとく叱られました。

今思うとこの時、父親の脳裏には戦争の悲惨さと亡くした戦友の顔が浮んでいたに違いない、戦争が何かも知らない若造が軽々しくこの歌を口ずさんだ事を今でも申し訳なく思っている。

もう一つの記憶は十年前の五月頃だと思ふ、兄が肝臓がんで日赤病院に入院していたので見舞いに行きました。

ベッドに横たわっていた兄が弱々しく起き上がり『正治はC型肝炎が治ってよかったな、俺は来年の桜は見れないかも』その言葉は私が聞いた最後の言葉になりました。

桜だけが花ではない。四季折々に美しく咲いてくれる花々に『今年も咲いてくれて有難う』と感謝の心で日々生きていこうと思ふ。